

### 第35期（令和7年度）入学式式辞

今年は桜の開花前に寒い日が続き、開花宣言がことのほか遅くなりました。今、服部大池の桜は満開で皆さんの入学を祝ってくれているようです。そんな中で福山市北部市民大学の第35期の入学式が盛大に挙行されることを大変うれしく思います。

会場には、来賓として北部支所長 松井利光（としみつ）様、福山市議会議員 小川眞和様、生田政代様 清水寛敏（ひろとし）様 北部地域振興課長 新谷昌亮様（まさあき）様に越しいただくとともに、講師の先生方に錦上花を添えていただき華やかに開催できることを心から感謝申し上げます。

さて最初にご報告があります。木版画の後藤先生が突然お亡くなりになりました。先生は市民大学の講師をお勤めになられるとともに、日本版画会の重鎮として理事や審査員を務めておられました。4月には役員としてヨーロッパに行って交流を図ると言っておられた矢先の訃報でした。心よりお悔やみ申し上げます。突然の事態を察していただき、以前講師をしていただいていた渡辺先生が復帰して急遽、木版画の講師をおつとめいただくことになりました。心から感謝申し上げます。

本日の入学式には、この市民大学が初めての学生のみなさんに出席して頂いています。皆さんには、市民大学の成り立ちや運営、生涯学習施設としての役割なども含めきちんと説明しながらも、心温まる式典にしたいと思います。

先ず、当市民大学のなりたちです。今年、創立35周年を迎えます。当時生涯学習の機運が高まっており、福山市北部地域の住民の皆さんから「身近で気軽に学べる生涯学習の場を増やしてほしい」という熱い要望がだされました。そこで、町内会連合会長 老人クラブ連合会長 公民館長さんなどで当大学の運営委員会が組織され開校の運びとなりになりました。

今でも直接運営の内容や方向性を決める運営委員会は、駅家町内の交流館長と事務局職員で構成されています。

めったにないチャンスですから、ここで皆さんに紹介させていただきます。

最初に 駅家交流館 鍵森（かぎもり）館長です。

宜山交流館 小川館長

服部交流館 上藤（うえとう）館長

駅家東交流館 中井館長

駅家西交流館 山田館長

続いて、日々学生の皆さんのお世話をさせていただいている事務局の職員です。

井上副学長です。藤本事務局長です。松本事務局員です。鶏内事務局員です。そして私は学長の吉川信政です。そして、学生会の後藤会長はじめ役員が出席し

てくださっていて、駐車場の誘導や、本日の入学式の式場の準備をしていただきました。

さて、地域の皆さんの熱意で開設された市民大学ですが、開学当時は、教室は十分にはないし、コピー機も借り物で都合よく使えません、鉛筆一本も公民館から貰ったと思い出を話してくださった先輩もいます。駐車場は狭くてみんなの車が置けないなど、ないない尽くしでした。講師の先生方は手弁当で教えてくださっていました。学生会からの中元と歳暮をお贈りする程度で教えていただくという、まるでボランティアでした。今でもその伝統は生きていて、先生方にはわずかな講師料で指導に当たっていただいています。開学して数年後に福山市北部市民センターが完成したことで、この建物の活用が私どもに特別に許可されたのです。駐車場が狭いとお叱りを受けることがあります。私が5年前に勤めていた老人大学の混み具合に比べると随分余裕があります。これ以上増やすことは無理ですから、大学が決めたルールを守り、駐車場の当番の指示に従ってください。

建物の設備もよくなっています。巨額の費用をかけてエレベーターの設置をしていただき、皆さんが使用できるようになりました。脚や腰が痛い人、三階まで重い学習道具を持ちあがっている人には大変ありがたい設備となりました。長年の懸案だったエレベーターを設置していただけたことは、当市民大学のこれまでの取り組みを評価していただいたということとともに、これからも福山市北部の生涯学習施設として地域から必要とされる市民大学であり続けなければならない責任も生じているといえます。

市民大学は、住民の熱意、講師の先生方の厚意、行政の後押し、そして地元選出の市議会議員の先生方の力があつたからこそ今の北部市民大学ができたのです。

しかし、独立採算の市民大学としては、授業や音楽用の放送設備、陶芸用の窯、授業用の机や椅子、コピー機などの事務機、学習のためのプリント用紙等の消耗品など、大学の予算の確保が必要となっていることを充分理解しておいてほしいのです。

さて、「人生百年時代」と言われている現代における生涯学習施設としての市民大学の意義です。自分自身の充実や啓発、活力ある地域社会の発展に寄与することなどが生涯学習の意義だと言われてはいますが、私たちの北部市民大学では、楽しく学んで、仲間と繋がり、喜びや感謝を伝えることを通して、いつまでも元気で楽しく暮らすための一助になるといいと思っています。

平均年齢がおおよそ73歳の市民大学の学生さんが生きがいを持って楽しく暮らすためには、まずは認知症予防だと思っています。全国民の30%が65歳

以上の高齢者でそのうち5人に1人が認知症だそうです。認知症予防のためには食生活の改善、適度な運動の習慣を身に着ける、睡眠時間の確保などがあげられます。そして他人とのコミュニケーションを図ることや知的活動を続けることが認知症予防に大きな効果があるようです。

市民大学には、今年92歳になられる学生さんがおられます。授業の度に教室に飾る花を持参されて、教室環境を整えるなどみんなのためになる活動が続けておられます。「私のできることをするんよ」と言われて自分のペースで学ばれています。穏やかで一緒に学ぶ学友を大切にされ、人に好かれる最高齢の学生さんです。常に新しいことを学び、教室の中で友と繋がるように歳を重ねて人生100年時代を生き抜きたいものです。

最後にもう一度お話しします。学ぼうとする意欲は心の元気につながるでしょう。自分の好きなことや興味や関心を持つことにチャレンジすることは心の健康につながるに違いありません。そして同じ学びを持った仲間を増やして日常生活を豊かにし感動ある生活を見つけていただきたいと思います。多くの感動や豊かなコミュニケーションはきっと人生に潤いを与えてくれます。このことが認知症を防ぎ、自身の健康と地域の元気につながるに違いありません。単なる高齢者ではなく、幸福の「幸」の字を書く素晴らしい「幸齢者」になりましょう。

「楽しい学び つながる喜び 伝える感謝」のスローガンのもと学生の皆さんと一緒に大学づくりをしようではありませんか。北部市民大学の活性化と皆さんの健康と発展を祈って式辞とします。

本日は 入学 誠におめでとうございます。

2025年（令和7年）4月5日

福山市北部市民大学

学長 吉川信政